

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

新春号

第8号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596)23・5166 FAX (0596) 23・5241
E-mail otayori@isebito.com

8

平成二十五年 式年遷宮の年 明け

明けゆく天空に
大慶の兆し。
ことしは大祭、
神宮式年遷宮の年。
次の二十年へ
新たな一歩が始まる。



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

朝まだきの内宮・宇治橋 撮影/阪本博文

「遷御」の儀

いつもと変らぬ暁の空、五十鈴川の瀬音、宇治橋をわたる風——。その一つひとつが今日初めてに思える元朝。八年間におよぶ諸々の祭や行事を経て、ついに迎えた新年である。

ことし、式年遷宮祭のクライマックス、「遷御」(せんぎょ)の儀が夜明けの神域で厳粛に挙行される。その日を期して、盛夏の伊勢は白石持行事の熱気にあふれることだろう。旧神領のそれぞれの町内がうちそろって宮川川原で拾い集めたこぶし大の白い石。それを清め、奉曳車に積み、大路を練って神域へ。手に手に白石を持って新たな御敷地へ進み、敷き詰める伝統行事である。

一方では、御戸祭、杵築祭、御装束神宝読合、川原大祓……、爾々と神職たちによって、仕上げの祭りがつづく。

ことしの初詣は、二十年間慣れ親しんだ宮々に感謝を込めて、お別れの参拝をする機会でもある。隣の新御敷地では、覆屋の中で、真新しい社殿がまさに完成しようとしている。

新しい二十年が、佳きことの始まりであることを祈りたい。

前回、「遷御」の月日は、
内宮十月二日
外宮十月五日

第六十二回神宮式年遷宮の遷御は、天皇陛下のお定め後、発表される。

●問い合わせ 神宮司庁
☎05966・24・1111

- 2面 感謝を込めて、初詣
- 3面 外宮前に新たなにぎわい
- 4・5面 遷宮祭と行事
- 6面 遷宮入門(その六)
- 7面 おかげの国をめぐる(十二)
- 8面 いせびと歳時記

二十年間の感謝を込めて、初詣

平成二十五年、遷御(神遷り)の年が明ける。慣れ親しんだ正宮の社殿や御門も、もうすぐ見納め。二十年間の感謝を込めて、初詣しよう。新しく始まる二十年が、幸多き日々でありますように。

東の御敷地から 西の新しい御敷地へ

いよいよ式年遷宮の年が明ける。御正殿が東の御敷地に建ち上って、ちよと二十年。社殿の萱屋根も、御敷地を囲む板垣や玉垣も、風雨に耐えた長い歳月を物語っている。この二十年間の無事に感謝して、初詣の祈りをささげよう。すぐ隣、西の御敷地では、今まさに新しい社殿が完成しようとし

神宮の祭りと行事

年末
初春

12月31日

罪穢れを祓う大祓

新年の大祭を行うにあたり、神職一同が五十鈴川の御手洗場のかたわらにある川原祓所に参集し、罪穢れをお祓いする。三十一日夕刻行われるこの儀式の様子は、参道から拝観できる。

1月3日

宮中と時を同じくして元始祭

年の始めに天皇陛下が皇統のはじまりをお祝いされるのに時を合わせ、大御饗を供え、お祝いする(参進のみ拝観できる。外宮四時、内宮七時)。

1月1日

新年を言祝ぐ歳旦祭

元日の朝、新しい年の始めを言祝ぐ祭り。外宮は四時、内宮は七時より。若水を汲み、海川山野の幸からなる大御饗(神様のお食事)が供えられる。正宮をはじめ、別宮やすべてのお社で順次行われる(参進のみ拝観できる。外宮四時、内宮七時)。

1月11日 一月十一日御饗

神様の新年会

内宮・外宮の正宮をはじめ、すべての社に祭る神様の新年会。内宮・四丈殿で十時から新春の御饗をお供えする。午後一時からは、内宮・神楽殿横の五丈殿で舞楽「東遊」が奉奏される。六人の舞人による雅やかな舞。周囲で拝観できる。

神域でお正月だけのお楽しみ

大かがり火(大晦日)元旦

夜とおしあかあかと燃える参道のかがり火は、年越し参りならではの風景。暖をとったり、お餅を焼いたり…。毎年、火を守り奉仕するのは全国からはるばる訪れる日本青年会のご一行。

舞が行われる(大晦日)一月七日(正午まで)

元旦の午前零時、君が代に始まる初神楽。各地からの参拝者と同座で、祝詞のあと楽人や舞女による雅やかな舞楽を奉納する。一番、二番、三番…とつづき、終日、内宮と外宮の神楽殿で奉納を受け付けている。初穂料 一座一万五千元より。

「年越し餅ふるまい」

伊勢市観光協会の方々により年末二十五日の餅つき行事でつき上げられた丸餅一万個が、大晦日夜十一時から元旦未明にかけて、内宮と外宮で参拝者に配られる。

「ことしは巳年」の干支守り

神宮の干支守りは、楠材を一刀彫したもの。箱を開けると楠特有の良い香りがする。神楽殿で授与される。初穂料(小)二千五百円(大)一万円。

「湯茶」「昆布茶」のもてなし

全国第三位のお茶どころ・三重の香り高い茶葉を用いて、茶業会議所の方々によって湯茶の接待が行われる。三十一日夜九時から三日午後四時まで昼夜通して行われる(内宮・饗膳所、外宮・休憩所)。

外宮・北御門では、神宮ボーイスカウト、ガールスカウトにより、

こぶ茶の接待がおこなわれる(二日、三日、九時半～十五時まで)。

●伊勢神宮力ケチカラ会の甘酒
参集殿の北側で恒例の甘酒の振



冬至の日の出(上)。年越しの大かがり火(下左)。大晦日の大祓(下右)。



初詣にぎわう正宮。



「一月十一日御饗」の舞楽。



「巳年」の干支守り



伊勢物 伊勢名

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファクシマール 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

お参り & 伊勢見物は “案内人”さんと共に

内宮・外宮ともに、広い神域には、正殿はもとより由緒ある見どころがたくさんある。正しい知識を身につけた案内人と共に巡ってみると思いがけない“お伊勢さん”が発見できる。町中も含めて、さまざまな質問に笑顔で即答してくれるベテランぞろいだ。



案内人(ガイド)とともに



お伊勢さん観光ガイドの会

外宮前にある観光案内所(伊勢市観光協会)を拠点に案内を受け、活動している。揃いのピンクのシャツとリュック(冬はあずき色のジャンパー)は、人ごみの中でお客様がはぐれないようにとの心づかいである。

副会長の阿形智恵子さんによると、「外宮さんに昔のような賑わいもどるようによく全員ボランティアで、おもてなしの心でご案内しています」。テキストをもとに毎月勉強会も開き、実地練習後「卒業」できたら、お客様の前に立つ。「ある学生さんをご案内したらとても喜ばれて、夏休みにお母様を連れてまた来てくださった。ガイド冥利につきます」会員約60名。

*外宮案内 無料 約1時間。内宮案内は10日前に予約。交通費負担1000円。
◎外宮前観光案内所
☎&FAX 0596-23-3323



お伊勢さん観光案内人

検定「お伊勢さん」(伊勢商工会議所主催)上級編合格者が、さらに研修を重ねたプロ意識の高い案内人だ。内宮、外宮の案内のほか、河崎や二見浦、125社めぐりなど、さまざまな伊勢観光の要望に応じてくれる。昨年度は約3万人を案内した。

会長で第一期生の中村光喜さんは、「全国からの人々に出会い、案内に満足していただけると、心からやり甲斐を感じます」と語る。

昨年、全国商工会議所「きらり輝き観光振興賞」を受けている。

*申し込み 3日前までに電話・ファックス・インターネットで。または内宮前「美し国観光ステーション」へ。
◎内宮(約90分)3000円、外宮(約60分)2000円ほか、移動の交通費
☎0596-24-3501 FAX 0596-24-3504
*詳しくは公式ホームページ「お伊勢さん観光案内人」
http://www.ise-cci.or.jp/source/oisesan/

外宮参道450メートルぶらり歩き

外宮参りは、なんとといっても、伊勢市駅(JR・近鉄)から徒歩六、七分と近いところがある。参宮帰りに立ち寄る店をチェックしながら歩くとしても、駅からすぐの刃物の老舗「伊勢菊一」の店主の山本武士さん(50)は外宮参道発展会の会長さん。「邪魔な荷物は、手荷物お預かりの張り紙のある店へ」とうれしいアドバイス(二個二百円)。春、駅前には素木の大鳥居が建つ。山本さんは建立委員会の発起人の一人で、目下、一口一百万円の募金



菊一文字は参宮のよろず相談処でもある。



伊勢菊一の山本さん

オープン
ほやほや
情報

赤福外宮前特設店
おみやげはもちろん、店内で赤福餅をいただける店舗が外宮前に登場。一益(三個)番茶付2800円、赤福ぜんざい(冬期限定)500円、五十鈴茶屋の季節のお菓子も。
営業時間 九時~十七時(喫茶は十時より)
年末年始は時間変更あり。年中無休
☎0596-227000

伊勢せきや本店
参宮あわびなど上質な贈答用品や家庭向き海産珍味で知られる伊勢せきやが、本店を外宮寄りに移転。売店のほか、ギヤフリ、カフェも併設する(12月中旬オープン予定)。また、彫刻家・齋内佐斗司氏の作品などが展示される。
営業時間 九時~十七時(カフェ 七時~十八時)
年中無休
☎0596-233141(代)

豚捨外宮前店
伊勢肉の老舗・豚捨の定食屋が外宮前にも。昼の定番は、牛丼、すき煮丼。店頭販売のコロッケ(一個90円)には、ここでは行列が。牛丼(小)840円。
営業時間 十時~十九時
定休 木曜日
☎0596-261129

食物の神様 外宮のご門前に 新たなにぎわい!

今、伊勢でいちばん目が離せないのは外宮あたり。「せんぐう館」(外宮まがたま池)オープンを待っていたように、外宮参道のにぎわい度がアップ。新しい店々が開いて、外宮前に弾んだ空気が流れている。



式年遷宮記念せんぐう館
外宮まがたま池のほとりにある資料館「せんぐう館」は、神宝をつくる技、宮大工の技など、式年遷宮の伝統を知ることができる。
開館時間 九時~十六時三十分(最終入館十六時まで)
年末年始 通常通り
大晦日二十三時~元日十七時三十分
休館日 第4火曜日(祝日の場合はその翌日)
入館料 一般300円、小・中学生100円
☎0596-226263

水上の奉納舞台もあるせんぐう館

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

新しい年が皆さまにとって 喜びの多い幸せな年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。



東京のお伊勢さま

東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
http://www.tokyodaijingu.or.jp/
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分



新御敷地に白い敷石を奉獻 (7・8・9月)



お白石の奉曳 (7・8・9月)



川原大祓 (10月)

遷御の日まで、あと一年

八年前に始まった遷宮への歩みは、ゴールの「遷御」が目前に迫っている。この夏、神領民によるお白石持行事が無事に行われると、秋はいよいよ総仕上げの祭りが次から次と。「遷御」のあとには、大神様の新宮で祝意を込めて雅な御神楽と秘曲が奏でられる。

八年間の長い「遷宮」準備を終えて

八年前の春、御柳山でご用材の伐り始めにあたって行われた祭り「山口祭」で式年遷宮の準備は開始された。一つ、ひとつ工程を進めることに祭りをを行い、神様にお見守りを願うのが遷宮の祭である。旧神領民たちがこぞって参加する伝統のお木曳行事も盛大に行われ、全国から注目を集めた。

七・八月

お白石持行事

九月

御戸祭、

御船代奉納式、洗清

心御柱奉建、杵築祭

十月

後鎮祭、

御装束神宝読合、

川原大祓、御飾、

遷御

大御饗、奉幣、

古物渡、御神楽御饗、

御神楽

平成二十五年の遷宮祭と行事

遷御の前に

お白石持行事 (7月・8月・9月)

新しい正殿の建つ新御敷地に白い敷石を奉獻する伝統行事である。お木曳行事と同じく、旧神領(伊勢市)の約八十奉獻団が中心となり、全国から特別神領民も参加して、真夏の空のもとで行われる。そろいの法被を着て、力を合わせて白石を載せた奉獻車を曳き、熱気あふれる祭りとなる。

この日に備えて、各奉獻団は数年をかけて宮川の川原に出てこぶ

し大の白石を拾いたくわえる。また、白石を手に持って奉獻する最後の場面では、神域深く足を踏み入れることになり、前もって、二見浦にある二見興玉神社へ浜参宮し、身を清めてこの日を待つ。神領民にとっては、新しいご正殿を間近に見られる唯一の機会でもあり、楽しみな行事である。

お白石持日程(主に金・土・日)
〈内宮奉獻日〉7月26日〜8月12日
〈外宮奉獻日〉8月17日〜9月1日

御戸祭 (内宮9月13日・外宮9月15日)

正殿に御扉をつける祭りで、造営の神・屋船大神に祈りを奉げる。

御戸立祭ともいう。これにより、社殿の外回りの造作は終わる。祭りでは、造営庁の技師が殿上に入り、御カギ穴をうがう。

ご神体をおさめる御船代を彫り、ご正殿に奉納する祭り。大宮司をはじめ造営庁の技師や小工が新宮内院に参入。東宝殿内で技監・技師が御船代を彫る。これを禰宜が調べて正殿内にお移しし、納める式である。

洗清 (内宮9月24日・外宮9月26日)

新殿が竣工したのち、殿内を洗

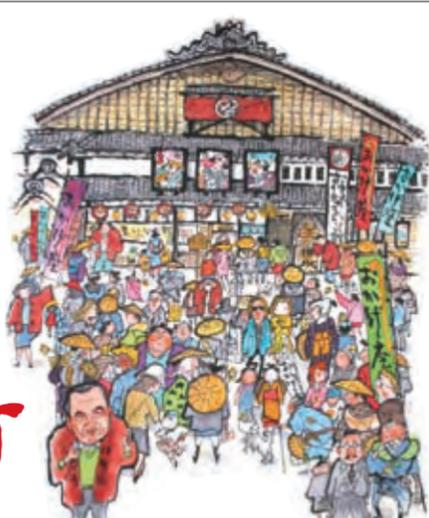
頭の深(神)呼吸に
来ませんか?



商売繁盛・出世開運
職務安全・出世開運
病気の病氣・ケガ
心の病氣・ケガ
学力向上
合格祈願
(入学・就職・資格・国家)
交通安全祈願
安産祈願・初宮詣・七五三

頭の守護神 知恵の大神
頭之宮四方神社
0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/

おかげ横丁 催しもの
12月15日〜28日 歳の市
12月31日〜1月1日 おかげ横丁行く年来る年
1月上旬 新春郷土芸能披露
1月11日 鏡開きぜんざいのお振る舞い



見、遊ぶ、味わう...
平成のお伊勢参りを
体験しに
いっぺんきておくんない。
伊勢 内宮前
おかげ横丁
伊勢市宇治中之切町52番地
☎0596-23-8838(総合案内)
http://www.okageyokocho.co.jp/



宇治橋の脇に祭りの標示

い清める式。禰宜が正殿内の御繩代・御玉奈井・御床および殿内を洗い清め、権禰宜たちが殿外はじめ大床・御階などを清める。さらに東西宝殿・御饌殿(外宮)にも昇殿して、同じく清める。

心御柱奉建 (内宮9月25日・外宮9月27日) 心御柱を新殿の御床下に建てるもので、ひときわ重んじられてきた深夜の秘事である。

杵築祭 (内宮9月28日・外宮9月29日) 新殿の竣工を祝して柱の根もとをつき固める由緒ある祭りである。

まず、大宮司をはじめとする神職、技術総監をはじめとする造営庁職員が五丈殿で古式ゆかしい饗膳を行い、それぞれ掛明衣を着け白杖をもって正宮へ。大宮司が内玉垣御門下で祝詞を奏上したのち、新宮にすすんで、古歌をうたいながら床下の柱を三周して築き固める。次いで、大宮司・少宮司・禰宜が瑞垣御門前に並び、倭舞を奉仕。かしこしや、五十鈴の宮の杵築してけり 杵築してけり 国ぞ栄ゆる 郡ぞ栄ゆる 万代までに 万代までに(皇大神宮)

天照す大宮廻かくしつつかえまつらむ かくしつつかえまつらむ 万代までに 万代までに(皇大神宮) 度会の豊受の宮の杵築して 宮ぞ栄ゆる 国ぞ栄ゆる 万代までに 万代までに(豊受大神宮)

後鎮祭 (内宮10月1日・外宮10月4日) 新宮の竣工をよるこび、大宮地におられる神に平安であるよう守護を願う祈る祭り。御床下に天平瓦を安置する。

御装束神宝読合 (内宮10月1日・外宮10月4日) 調進された御装束神宝を新宮に納めるにあたり照合する式。祭主はこの式よりはじめて遷宮祭に奉仕される。四丈殿にて祭主に式目をごらんいただいたのち、寸法などに誤りはないか照らし合わせる。

川原大祓 (内宮10月1日・外宮10月4日) 遷御前日、御装束神宝をはじめ遷御の御列に列する物、また奉仕する祭主をはじめ神職全員を祓い清める式。祓所は内宮は滝祭神の東方、外宮は中御池のほとり三ツ石付近。奉仕員は役職に応じて端麗な遷御奉仕装束に威儀を正して勢ぞろいする。

御飾 (内宮10月2日・外宮10月5日) 調進された御装束で新殿を装飾し、遷御のご準備をする式。

祭主、大宮司をはじめとする諸員が正宮へゆき、遷御の御列で用いる御装束神宝などを納め、次に新殿に進んで、殿内を飾り、祭主に検分していただく。

遷御

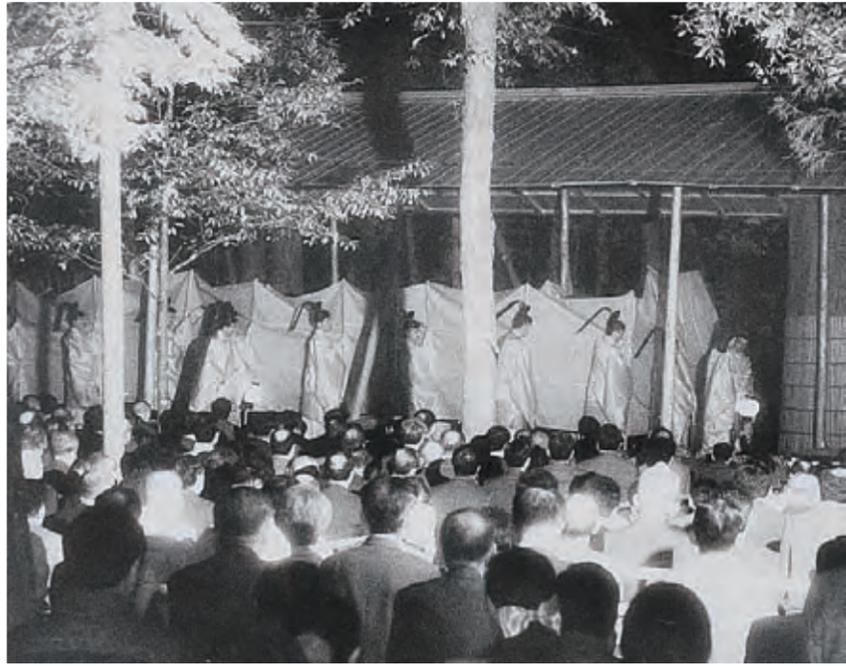
(内宮10月2日・外宮10月5日)

ご神体を新宮にお遷りする祭り。天皇陛下が斎行の日時をお定めになる最重要な儀式である。

以下、前回の遷御にならうと、午後六時 神域に響く第三鼓を合図に勅使一行、祭主以下の百数十名に及ぶ奉仕員が参進。勅使が正殿階下で新宮へお遷りを請う御祭文を奏上。祭主・大宮司・少宮司・禰宜が殿内へ。

庭燎も消され、浄閣のしじまに岩戸開きの故事にならう鶏鳴三声が唱えられる。

午後八時、大宮司・少宮司・禰宜に奉戴された神儀が新宮へと向う。



雨儀廊を進む遷御の御列 (10月)



杵築祭 (9月)



遷御の儀へ向う祭主、大宮司はじめ一同 (10月)

遷御の後に 午後八時、大宮司・少宮司・禰宜に奉戴された神儀が新宮へと向う。

- 大御饗 内宮10月3日・外宮10月6日 遷御の翌日、新宮で初めての大御饗をお供えする祭り。
- 奉幣 内宮10月3日・外宮10月6日 遷御の翌日、新宮の大御前に勅使が幣帛をお供えする祭り。
- 古物渡 内宮10月3日・外宮10月6日 遷御の翌日、古殿に奉獻してあった神宝類を新宮にお移りする式。
- 御神楽御饗 内宮10月3日・外宮10月6日 遷御の翌日の夕、御神楽に先立って大御饗をお供えする祭り。
- 御神楽 内宮10月3日・外宮10月6日 新宮の四丈殿で勅使および祭主以下参列のもとに宮内庁楽師十二員により御神楽と秘曲が奉奏される。
- ※ 遷宮祭の月日・写真は前回第61回式年遷宮のもの。
- ※ 遷宮祭は一般の参拝者の拝観はできません。

金座(西の御敷地)へご遷宮

昔から伊勢の遷宮は「時代を変える」とか「世直し」、つまり時代の転換点といわれてきた。東の御敷地を「米座」「こめぎさ・こめくら・よねのくら」、西の御敷地を「金座」「かねざ・かねくら」と呼ぶ慣わしも伊勢にはある。東の御敷地に本殿がある米座のときは、平和で心豊かな精神の時代。西にある金座のときは波乱、激動する経済の時代ともいわれる。しかし、それは昔からではなく、明治以降のことのようだ。二十年を一つの時代ととらえ、次の二十年が新しく希望にみちたものであることを祈る神領民の心根を反映した言い伝えといえよう。いよいよ始まる「金座」の時代。果たしてどんな時代が展開するだろうか。

明治以降の米座と金座

第55回(明治2年~)	米座
第56回(明治22年~)	金座
第57回(明治42年~)	米座
第58回(昭和4年~)	金座
第59回(昭和28年~)	米座
第60回(昭和48年~)	金座
第61回(平成5年~)	米座
第62回(平成25年~)	金座

「和妙」にきたえ 水の良さを最大限 ひきたせるよう 作りあげた豆腐です。

伊勢おほらい町 豆腐庵山中

伊勢市宇治中之切町95番地 電話 0596-23-5558 定休日/木曜

五十鈴川の水を生かした 豆腐を作りたい

うの花どーなつ 豆乳とおからを練り込んだヘルシーなドーナツです。

伊勢内宮前 三重県伊勢市内宮おほらい町

TEL 0596-224175 FAX 0596-242510

http://www.nikodo.co.jp/

祝平成25年 第62回 神宮式年遷宮

参宮客をもてなす 名物ステーキ牛丼をどうぞ

外宮さんと内宮さん二つのお宮が 永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より 「二光堂」と名づけました。

遷宮入門 その六

御白石持行事

〔豆事典〕(下)

御白石持行事は「信心持」と言われ、信仰心を伴った自発的な奉仕の気持ちで行います。

二回目は奉献の変遷について紹介します。

御白石は誰が用意するのか

奉献される御白石は旧神領民が宮川流域で採取します。これを「御白石拾い」と称し、町内の神社などで一旦保管されます。奉献の他の御白石は神宮式年造営庁が準備し、全体の大部分を占めています。

神領民はどのようにして奉献するか

旧神領には各町に御白石奉献団が組織されており(分村や人口の増減などで若干異同がある)、平成五年度は、旧神領の八十団、約十万人が参加しました。現在は各団一日で奉献を

特別神領民の参加

昭和四年度の遷宮では、新規の奉献団は認可されず、既存の六十九団に限られました。昭和四十八年度遷宮の時は、御白石奉献団総連合会が結成されるなど進展がありました。御白石持行事は旧神領民が行うものですが、この時から希望者も一日神領民として参加できるようになり、一九二九人が参加、平成五年度遷宮では約二十一人が参加しました。今回は特別神領民と改称されました。

行事の禁忌

「伊勢のお木曳き行事 御白石持行事」(文化庁文化財保護部)に次のような禁忌が記載されています。○江戸時代には服喪中の家族は行事へ参加しなかつた。○行事に参加する者は、予め二見興玉神社にて潔斎の参拝を行う。これを浜参宮と称す。行事中に事故に遭った者は、改めて浜参宮に行かせて参加させた。○行事中に事故があった場合は、奉

って参加しないように通知が出されています。私事と公の行事と区別する習わしの表れなのでしょう。

ら奉献車に発達し、川曳きは櫓が用いられるようになります。

中西正幸著『神宮式年遷宮の歴史と祭儀』によると昭和四十八年度遷宮の場合は次の通りです。

奉献団・参加者・御白石の数

奉献の日程と次第

- 内宮◇七八団◇八〇、〇二四名
- ◇一五九、七三七個◇一日神領民
- ◇一四四団◇二二、一九三名◇一四、五一八個
- 外宮◇七八団◇七九、〇二〇名
- ◇一七四、四五二個◇一日神領民
- ◇二三九団◇七、〇二六名◇一〇、〇〇〇個

御白石運搬手段の変遷

御白石持行事は「信心持」とも称されました。労働ではなく信仰心に発する自発的な奉仕の意味です。運搬法に特に決まりはありませんでした。『寛政遷宮物語』には「いとさやかなる金ばりの桶二つに、白石かずとばかり入れて、さしに

なひたるは、いかなるまねびにか」とあり、特殊な用具が用いられていたことがわかります。その他モッコやフゴを用いた時期もあり、陸曳きでは荷積車や大八車か

移動中は木

を積載して

を積めた櫓

を積載して

奉献車や櫓に御白石を積載して移動中は木

コラム

昔の御白石奉献の手順

江戸時代に御白石持ちを行う際は、造営を司る作所から、両宮の長官(一の称宜)に申し出て、長官から山田奉行に会合や町在へ触れ渡すよう依頼する手順であった。明治22年度は、30カ町の代表が神宮司庁に奉献を出願し、神宮司庁から三重県庁を経由して内務大臣の許可を受け、造神宮使庁の出張所と日程などが協議された。

遷宮トピックス

宮川で拾い、洗い清めた御白石

御遷宮対策委員会では、特別神領民が奉献する御白石を宮川で採取し準備にあたっている。現在伊勢商工会議所(伊勢市岩淵1丁目)のロビーには、その一部が櫓に入れて展示され、来年に迫った行事への機運を高めている。御白石の大きさは一般的に握り拳ぐらい、大きいもので約7.5センチ、小さいもので約4.5センチとされている。

ゆとりとやすらぎの宿

神宮会館

(財)伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分とたたでもご利用いただけます

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>

早朝参拝の
ご案内をしております。

<http://www.iwatoya.co.jp>

祝平成25年第62回神宮式年遷宮
お多福とともに岩戸屋は
今も昔も内宮前

伊勢・内宮前おほらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
珠庵
TEL 0596-23-6750

伊勢の土産&ギフト
百福者
TEL 0596-23-3236

名物岩戸餅

12回シリーズ 最終回

「おかげの国」をめぐろう！

お伊勢さん百二十五社のたたずむ「おかげの国」。最終回は、伊勢市街から宮川の「桜の渡し」を越えて、宿場町として栄えた小俣の参宮街道を通り、伊勢市の郊外にある十社を訪ねます。



伊勢志摩エリアは神宮の百二十五社が点在する。おかげを感じる「おかげの国」。官民の組織「おかげ参り推進委員会」が、おかげ参りのような旅の提案に取り組んでいる。

伊勢志摩エリアは神宮の百二十五社が点在する。おかげを感じる「おかげの国」。官民の組織「おかげ参り推進委員会」が、おかげ参りのような旅の提案に取り組んでいる。
0596-23-5151
事務局 伊勢商工会議所

お伊勢さん 125社とは

- 正宮(しょうぐう) 2社**
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。
- 別宮(べつぐう) 14社**
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わりの深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。
- 摂社(せつしゃ) 43社**
927年の『延喜式神名帳』に記載されている神社。
- 末社(まつしゃ) 24社**
804年の『延暦儀式帳』に記載されている神社。
- 所管社(しょくかんしゃ) 42社**
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられている。

おかげの国めぐりにおすすめ!

「おかげの国」をめぐるとは「お伊勢さん125社めぐり」を。歩きに便利なMAPや周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報がもりだくさん。
●三重県内の主要書店、観光施設ほかで発売中!
定価1260円
(送料1冊80円)
伊勢文化舎
☎0596-23-5166

十二 小俣めぐり

その 桜の渡しを越え 参宮街道の宿場町へ
約10キロ スタート 近鉄山田線 宮町駅 ゴール 三重交通・湯田バス停

スタートは、近鉄・宮町駅。東出口の正面にある細い路地を直進すると、住宅街のなかに大きな森が二つ見えます。左は御頭神社で有名な高向神社。右のこもり高い森が宇須乃野神社です。境内を覆うシンボルツリーの大楠は樹齢千年近いといわれます。



宇須乃野神社



清野井庭神社



広い敷地のなかに並ぶ草奈伎神社と大間国生神社。



参拝後は、来た道に戻り、近鉄JRと二本の線路を越えていくと、静かな住宅地の公園横に清野井庭神社がおさまっています。次に目指す社もすぐ近くにあり、同じ境内に草奈伎神社、大間国生神社がまつられています。

影を感じる町並みのなかに、次の小俣神社があります。街道をさらに西へ。神宮に奉仕する皇女・斎王が奉仕のときに宿泊した離宮跡にたつ離宮院公園はちょうどいい休憩スポット。梅の名所としても知られています。最後に訪れる湯田神社は、水田に囲まれた静かな社。湯田とは、斎田(神田の意)からきており、周辺は、

- 1 宇須乃野神社** (取材・文 中川絵美子) うちのしんじや「外宮摂社」
- 2 同座 縣神社** あがたしんじや「外宮末社」
- 3 清野井庭神社** きよのいばしんじや かつて神宮の神田だったといえます。ゴールの湯田バス停までは歩いてすぐです。
- 4 草奈伎神社** くさなきしんじや「外宮摂社」 外宮第一の摂社。大若子命が垂仁天皇の勅令により標剣杖を賜り、越の国の兜族阿彦を平定に出かけ、その御神威のあつた剣をまつられたと伝えられる。
- 5 大間国生神社** おおまくなりしんじや「外宮摂社」 板垣のなかに二社が鎮座。右の大間は若子命をまつり、左の国生社は、乙若子命をまつる。
- 6 志等美神社** しとみしんじや「外宮摂社」 祭神は木の神で、この辺りの林野の神。堤防の守護神ともいわれる。
- 7 大河内神社** おおこうちしんじや「外宮摂社」
- 8 打懸神社** うちかけしんじや「外宮末社」 五穀豊穡の守護神であり、宮川堤防の守護神でもある。
- 9 小俣神社** おはたしんじや「外宮摂社」 祭神は、伊弉諾・伊弉冉の御子神。地元では「いなべの社」「稲女さん」と親しまれる五穀豊穡の守り神。
- 10 湯田神社** ゆたしんじや「内宮摂社」 この土地の農耕守護の神をまつる。



参宮客が伊勢に入る前に身を清めたという清流・宮川。

おかげ参道の 7 船参宮

長さ約八十メートルもある門脇俊一画伯の大屏風の最後の場面は、二見の御塩殿(みしおどの)神社にお参りしてから伊勢湾を船で帰るのか。それとも三河方面から大湊(おおみなと)、神社(かみやしろ)、河崎めざして、これから参宮に向かうのか、帆掛け舟がどっさり。

おかげ参り最盛期の文政十三年(一八三〇)の参拝者数は五百万人近かったという。屏風の画面には四月から八月まで総人数四百四十一万九千人とある。正確とはいえないが、宮川の渡して山田奉行が監督しカウントしていたし、本居宣長も記録をとっている。ただしこれは宮川を渡った人で、静岡、愛知方面から船で来る人はカウントされていない。江戸から歩いて十五日、京大阪から五日間。船を使えばずっと短縮する。船参宮は天候さえよければこんな楽な旅は無かった。海のバイパスである。かなりの方が船参宮で来たらしい。これを伊勢の人は「ドンドコさん」と呼んだ。太鼓を叩いて賑やかに囃しながら、大湊神社、二軒茶屋に上陸し、河崎に来た。ドンドコさんが来ると春になるという。伊勢と三河は舟により結ばれ、文化交流がとても深かった。伊勢うどんも三河の溜り醤油が元になっているのです。



文・矢野憲一 NPO法人五十鈴塾塾長。四十年間神宮に奉職した元神宮禰宜。神宮司庁文化部長、徴古館農業館館長などを歴任。著書に『伊勢神宮の衣食住』、「鮫」、「アワビ」、「枕」、「杖」、「亀」、「楠」など多数。

伊勢熨斗
伊勢志摩産のあわびを使った本物の熨斗袋

先様の健康と長寿を祝う心を形にした伊勢熨斗。各種熨斗紙・熨斗袋・祝儀袋を取りそろえています。

海女の話聞きながら、海女小屋で新鮮な魚介に舌つみ
海女小屋はちまんかまど

漁場に近い海女小屋で、海の幸の採り手である海女達の話を聞き、手焼きによる魚介をいただきます。(100名様収容)

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

海女文化を提供する **兵吉屋**

〒517-0032 鳥羽市相差町1094番地
TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407

E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com

あわび

◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596-23-1281(代)
☎0120-00-0707

◆本店(外宮前) 伊勢市本町13-8
電話0596-23-3141(代)

◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596-20-3958(代)

◆内宮前店 伊勢市宇治中切町87
電話0596-28-0081

いせびと歳時記

12月

冬から春にかけての伊勢志摩のまつり・イベント情報

1日(土) 御酒殿祭

ご料酒がうるわしく醸造されるよう祈願し、同時に全国の酒造業の繁栄を祈る。

15日(土)~25日(火) 月次祭



月次祭

皇室と国民のいやさかを折って行われる伊勢神宮の大祭。三節祭のひとつ。

16日(日) 桃符頒布始祭

伊勢志摩地方特有の桃符(注連縄につける厄除開運の木札)蘇民将来子孫家門の頒布始祭。折袴のあと、注連縄の頒布を行う。

21日(金) 冬至祭

冬至(前後1カ月)は、宇治橋の大鳥居中央から昇る朝日が拝める。冬至当日、宇治橋前では来訪者に「冬至ぜんざい」、袖子の振る舞いが行なわれる。

25日(火) 神宮奉納餅つき

大晦日に外宮・内宮で配るお餅をつく行事。式典の後、お餅の振る舞いがある。

31日(月) 大祓

新年を迎えるにあたり神職たちを祓う伊勢神宮の儀式。年越しの大祓とも。参道から拝観可能。

31日(月)~1月1日(火) おかげ横丁行く年来年

毎年、恒例のカウントダウン。おかげ横丁一帯が全国からの観光客の熱気につつまれる。地酒「おかげさま」の振る舞いもある。

31日(月)~1月1日(火) ゲーター祭り

神島の男たちが「アワ(輪)を竹で突き上げ、豊漁を祈願する天下の奇祭。アワが高く上がるほど大漁になるといわれている。

31日(月)~1月1日(火) 名のり・しめ切り・火祭り

大晦日の夜に行われる大王町の祭り。「名のり」は、各家を回り船頭役と子供たちが掛け合せてその家を褒める行事。「しめ切り」は5メートルある大注連縄を切つて山の神を迎え、つづいて火祭りが始まる。

1月

1日(火) 歳旦祭

元旦の未明に、新しい年の始まりを祝う伊勢神宮の祭り。参道には大晦日の夜からかがり火が焚かれる。

1日(火)~3日(木) 獅子舞行事

五穀豊稔、大漁満足を願う獅子舞。舞方は地域の高校生がつとめる。



獅子舞行事

5日(土) 相差獅子舞神事

一年の悪事災難除けを祈願する相差の祭り。早朝から天狗と獅子が笛や太鼓に合わせて舞い、夜になると神明神社に練り込む。

11日(金) 湯立神事

約2000年前から伝わる正月納めの神事。境内に大釜を置いて湯を沸かし、その湯の滴をかぶることで身を清め、無病息災を願う。

14日(月) 湯立神事

二見興玉神社の節分祭。特設大豆台で赤鬼・青鬼を追い出したあと、宮司、年男、年女らが舞台上がり、福豆・紅白餅などを撒く。

15日(火) 毘沙門天初祭り

毎月15日は七福神の二柱・毘沙門天の縁日。一年で最初の縁日に関連祈禱を行う祭り。参拝者への甘酒の振る舞いもある。



湯立神事

20日(日) 初えびす

浜島の漁業関係者が恵比寿の神を中心に、南の浜を向き、三回の初笑い神事を行う。だれでも参加可能。

20日(日) 里神楽萬歳祭

豊作を願う「豊年踊り」と弓で鬼の的を射る「鬼打ち儀式」の二つが行われる。

3日(日) 節分祭

二見興玉神社の節分祭。特設大豆台で赤鬼・青鬼を追い出したあと、宮司、年男、年女らが舞台上がり、福豆・紅白餅などを撒く。



節分祭

3日(日) 水取神事

冬から春へと向かうこの時期、本殿近くに湧く御神水「頭之水」をいただくことで、大地の生命力を取り入れ、一年の息災を願い、厄除や心願成就を祈る神事。



水取神事

4日(月)~3月10日(日) おひなさまめぐり in 二見

二見浦一帯の旅館など約100軒に計6000体の雛人形がならぶ。恒例のスタンラリーも開催。

9日(土) 予定 高向の御頭神事

800年以上前から伝わる祭り。朝6時半頃から夜12時まで行われ、雄雌二体の御頭(獅子頭)が地区内を舞いめぐり、松明に照らされた「打ち祭り」は夜の部の見せ場。

17日(日)~23日(土) 祈年祭

一年の五穀豊稔を祈る伊勢神宮の祭り。「としごいのまつり」ともい、神饌を奉る大御饗の儀と、奉幣の儀が行われる。

23日(土) 勝田流 通能

通能の人々により、戦国末期から伝わる「能楽勝田流」の通能が奉納される。伊勢市無形民俗文化財。

24日(日) 汗かき地蔵祭

吉事には白い汗、凶事には黒い汗をかきという「汗かき地蔵」の祭り。朝9時頃から露店も並ぶ。

27日(水) 御船祭

全国の漁業者から信仰される青峯山正福寺の祭り。奉納された大漁旗が境内に並び、露店も出て多くの参拝者で賑わう。鳥羽市有形文化財。



御船祭

写真展「日本人のこころ」 神宮の森

第62回式年遷宮を迎える神宮の森の知られざる自然の美しさ・奥深さに迫る写真展。入場無料。

1月14日(祝) 海神饗宴〜三重の海の祭り 阪本博文写真展

伊勢市出身の写真家・阪本博文氏が長年撮り続けている「海の祭り」の写真作品を大型パネル70枚で紹介。また、関連する祭具も展示する。



海神饗宴写真展より「ととつりあい」

1月1日(火)~3月3日(日) 新春企画展 「見て学ぶ国史絵画3 近世・近代」

昭和8年に今上陛下ご誕生をお祝いして、当代の画家たちが神話から近代までの日本のあゆみを描いた「国史絵画」の展示。関連する歴史資料の展示もある。

●データは10月末日現在。まつり・イベントは主催者側の都合により、変更になる場合があります。お出かけの際はあらかじめ電話でご確認ください。

「2013年 伊勢講ごよみ」発売中!

テーマは「ご遷宮の年を迎えて——」。

「伊勢講ごよみ」は「神宮と神領」の一年がわかるカレンダー。今年行われるご遷宮の祭や行事を追って一年を巡ります。写真に添える和歌・俳句などとともに、前回ご遷宮時の美しく厳かな光景をお楽しみください。1部1000円(送料込)。伊勢文化舎 ☎0596-23-5166



購読のご案内

本紙を購読ご希望の方は、ご住所・お名前・電話番号・号数を明記の上、1回につき郵送料100円の切手をお送りください。(1・6号在庫なし)(年3回発行予定) (送り先) 〒516-0016 伊勢市神田久志本町1474-3 伊勢文化舎内 「いせびとニュース」係

伊勢からの便り

新春一番の関心事は、お伊勢さまのご遷宮。また、外宮周辺に新しい店が増えていること。外宮さんが食の神さまと言ったことでもあるので、うか、伊勢らしい味処が次々に集まってきました。名物餅や伊勢うどん、新名物の御饗餅を始め、和洋の料理店や地元の商品を奉納・販売する市も開かれ、前のような賑やかさが再び、と期待されます。新春、味処を巡るお伊勢参りにお出掛け下さい。伊勢文化舎代表 中村 賢一



初詣

初詣は伊勢神宮へ。